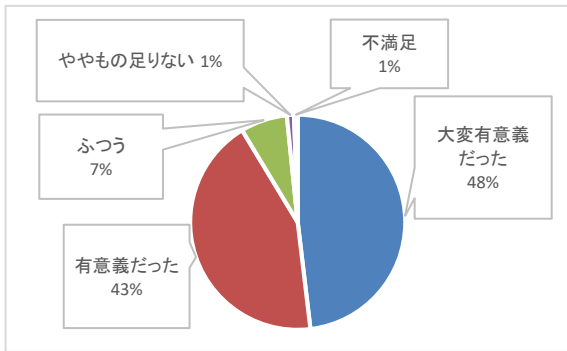


# 子供防犯教育人材育成事業 アンケート集計結果

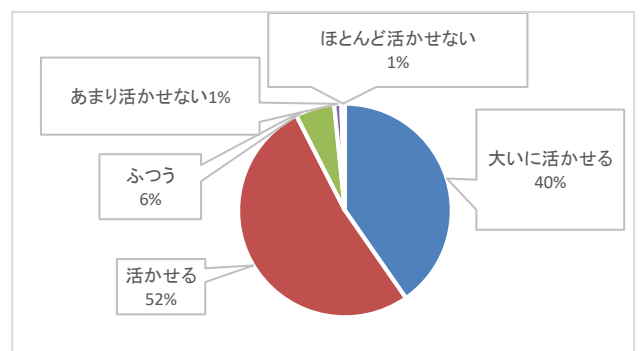
(令和元年度～令和2年度) 回答者185名

## 1 今回の研修全般について

(1) 今回の研修についてどのような印象をお持ちですか。



(2) 研修内容は今後に活かせると感じましたか。



(3) 研修内容のうち、よかったと思われるものがありましたらご記入ください。

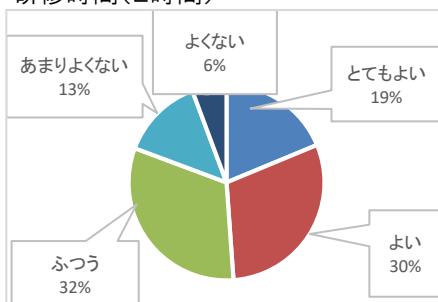
- ・防犯に関する具体的事例や事件などを通して研修が進んでいったので、とても勉強になった。
- ・研修テキストが具体的、実践的でわかりやすかった。今後の指導に活かしたい。
- ・「知らない人」に気をつけるのではなく、具体的な「行為」「雰囲気」に注意する。
- ・明るい場所や人通りの多い場所でも犯罪はおこりうるので、大人の目がある環境を作り子供達を守りたい。
- ・地域と連携し、空白区間などに110番の家を設置していく。
- ・安全力(知識、理解、思考、行動)を育成する。
- ・防犯モラルジレンマについて
  - 断り方を子供に教える方法がわかった。
  - 不審者と親切な大人との判断基準をどう子供に伝えたらよいか分かった。
  - このような学習の仕方があると知ることができた。

### 防犯モラルジレンマとは・・・

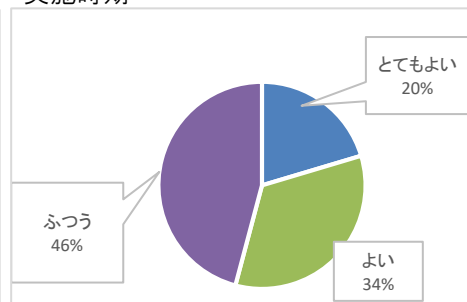
大人は子供に「人には親切にしてあげよう。」と教えている一方、  
 「知らない人に話しかけられても無視しなさい」とも教えることがあります。  
 子供が知らない人から声をかけられたとき  
 「親切にしてあげたいけど、知らない人と関わってはいけなとお母さんに言われているし、どうしよう。」と迷うこと。

(4) 研修時間、実施時期、会場はいかがでしょうか。

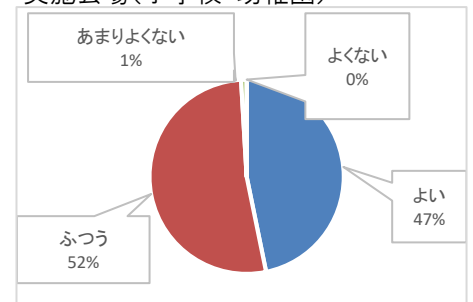
研修時間(2時間)



実施時期



実施会場(小学校・幼稚園)



### ご意見

- ・少し長い(1時間から1時間半ぐらいで良いのでは)。

**(5) 子供たちの安全を守るために、どのような講習があったらよいと思いますか。**

**子供たち向け**

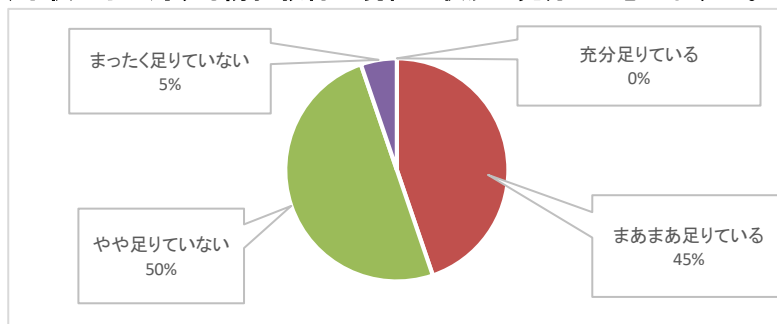
- ・実践的なもの、体験的なもの、ロールプレイ
- ・子供の目線から、どんな危険がどんな回避方法があるか、具体的に教える。
- ・子供達も一緒に聞ける講習や、子供達向けの防犯講習  
(ランドセルを置いて逃げる、不審な行為に注目する、大声でさけぶ、護身等)。
- ・子ども自身の役割、大人の役割、どちらも子どもたちに示すこと。
- ・SNSの使い方。利便性とともにどのようなことに気をつけると安全に使えるか。

**大人向け**

- ・防犯教室で動画を見せる、話をするのみで終わってしまっているの、具体的な指導方法。
- ・学区の危険箇所の共有(学校・自治体・地域住民)
- ・子供の見守り活動の担い手を育てる講習
- ・今回のような研修を保護者向けにやっていただきたい。
- ・今回の講習の内容について、会報等を通じて全保護者に説明し浸透させる。
- ・実際にあった事件について、話を聞いたり、何が問題だったのかを教えてもらう講習
- ・学校、地域の実践例

**2 子供の安全に関する防犯教育について**

**(1) 子供たちに対する防犯教育は現在の状況で充分だと思えますか。**



**(2) 子供たちに対する防犯教育の現況について、ご意見・ご要望等があればご記入ください。**

- ・防犯モラルジレンマの考えが興味深く、子供にも伝えたいと思った。
- ・実際の授業で行う(ノーランドセルなど)を充実させたい。
- ・防災教育と比べると防犯教育は機会が少ないので、もう少し時間をとってほしいと思う。
- ・一人一人ができることを行い、他人ともつながっていくことの大切さを教えてほしいと思う。
- ・子供達がインターネット(SNSなど)にふれる機会が増えるので、ネット犯罪の防犯教育にも力を入れて欲しい。
- ・防犯について地域の人の声や情報が、リアルタイムで共有できるツール等が欲しい。
- ・子供達や保護者に、現実に起きている事件・事案をきちんと伝えて、自分たちなりに考えてもらうことも大切では。
- ・「子ども110番の家が子ども目線でない(実際に子どもたちが活用できるのはわずか4%)」とのこと、関わり方をもう一度考えたいと思った。
- ・防犯の意識も必要であるが、ちょっとした声かけも不審者だと反応してしまい、指導のむずかしさを感じる。
- ・学校の取り組みについても温度差があるように思う時もある。
- ・声かけをされた場合の、断り方を教えるような授業をしていることを知りました。  
親としては子供の安全第一で「声をかけられても相手にしないでいい」と言っています。  
しかし、人に優しくしてほしい気持ちもあり、まさにジレンマを感じていたところでした。  
相手を思いやりながら自分の身の安全も守れるスキルを身に付けられるような授業や、  
家庭での指導を行う必要があると気づかされました。
- ・この研修をふまえて、子供へのフィードバック。学校と家庭、地域間での定期的な意見交換をして、  
この研修のみで終わらせない体制が必要なんだと思いました。